

大学院修了式

思い出を胸に、新たなステージへ

text_ishii

3月24日、平成19年度の本学の学位記授与式が行われ、都市デザイン研究室では博士課程2名(岡村・田中)、修士課程10名(後藤・竹山・石井・伊藤・奥田・塩澤・筒井・ファズリ・ポンサン・横田)、空間計画研究室では修士課程2名(砂川・平林)、合わせて12名の院生が学位を得た。

空はあいにくの雨模様ながら、修了者の笑顔は晴れ晴れ。近年の研究室の拡大に伴い、修了者は過去最多。小宮山総長の「しなやかな知性で全体像をつかめ」の激励を胸に秘めながら、にぎやかな春の門出となった。

助教より寄せられた 卒業生へのお祝いコメント

みなさん、卒業・修了おめでとう。教室に燦々と降り注いだ甘酸っぱいオレンジのような夕陽は、これからも変わらずみなさんを照らし続けます。是非いつまでも、青くさい春を進んでください。

野原 卓

修了、おめでとう。ここで得た絆をずっと大事にして下さい。で、さしあたっての20代の後半は、自分探しいいけれど、むしろ自分壊し? 社会の中にある自分をびしっと探究していこう。

中島 直人



研究室への置き手紙・後編

前回に引き続き、修士2年のみなさんからのメッセージを紹介します。

■奥田紘子さん

毎日明日が楽しみな日々、楽しさこそ人を動かす原動力だと学びました。アイデアや充実感、向学心、都市への愛情、総てがこの研究室を通して出会ったみなさんに触発され、支えられて生まれてきました。ありがとうございました。



■ポンサン・ ウィチエンプラデイトさん

最近思うことですが、都市においてもっとも大事な部分は人だと思えます。生活している人々の行動は都市空間そのものよりも都市の印象を異なるものにします。よって、プランニングの立場の人間はそこにいる人々のことを第一に考えねばなりません。

■竹山奈未さん

人生の流れには波がある。山有り、谷有り。流れに載って楽しく生きて行けたら、と思う。タイミングもとっても大事。研究室でみんなと出会えたことも大きな幸せ。今までありがとうございました。これからもよろしく!!



■伊藤雅人さん

五里霧中より発し無我夢中に達す。気付けば走り抜けるように過ぎ去った2年間、苦悩はたえなかったが研究室には常に笑顔が溢れていた。「何事も楽しくやる」2年間で実践できた唯一のことかもしれない。願わくばこれからもずっと実践していきたい。研究室の皆様、本当にありがとうございました。



関心高まる鞆、展示会開催

港町交叉展～せとうちのまちづくり～

M1 山田 浩

春の日差しが暖かな3月の週末。有志鞆メンバーが、約1年間かけて行ってきた瀬戸内港町調査の結果を多くの方に向け発表すべく、「港町交叉展～せとうちのまちづくり～」を日大伊東研と合同で行った。鞆プロジェクトの展示会としては、前回の「まち博」から2年越しの開催となる。



会場となったのは、港に面する、旧藩蔵を改装したフリースペース白壁。目の前に鞆の港や常夜燈を臨む好立地に、家族連れ、カップル、カメラ片手の年配男性など、多くの方々に立ち寄って頂けた。

展示内容は2部構成となっており、第1部は北前船寄港地として鞆のほか、粟島、尾道、瀬戸田、室津を対象とし、空間という視点からは、瀬戸内の港町の特徴として、「海、岸、街、寺、山」の5つの共通要素を発見。その中でも、各港町の所与の自然条件や歴史によって、港町としての性質や特徴の違いがあることを説明した。



また、各港町でまちづくり活動をする方々へのヒアリング調査から、各まちづくり団体同士の相関や、まちづくりの系譜を視覚化し、どのようにしてまちづくりが行われてきたのかを紹介。他のまちにおいて、まちづくりを進めるヒントとなればと願う。

第2部では、日本全国での北前船を活かしたまちづくりの全国調査の結果を展示。北陸を中心に北前船の価値認識の高まりを紹介する一方、まだまだ十分な活用事例がないことを指摘した。

架橋問題がニュース23で紹介されるなど、社会的な注目を浴びる鞆の浦。新聞3社の取材を受けるほか、鞆のまちに関心を抱く市民の方、自身のまちでまちづくりに携わる方、鞆だけでなく瀬戸内を水辺から考え、意見を発信している方などが訪れて下さり、パネルを前に我々と意見を交換するなど、市民レベルでも鞆の浦への関心が高まっていると感じることができ、充実した展示会となった。



新刊紹介

『風景論ノート 景観法・町並み・再生』

text_kakibaya

西村先生の4年ぶりの新刊が発売されました。景観まちづくりの歩みを制度論、方法論からまとめ、各地の取り組み事例や、今後の都市環境の再生について論じた、ボリュームのある内容となっています。



西村 幸夫(著)
/鹿島出版会

M2編集部員引退—新編集長発表!!

都市デザイン研究室マガジン、新体制発足

text_hiraoka

都市デザイン研究室マガジン編集部でも、2人のM2編集委員が修了を迎えました。一年間マガジン編集部を引っ張ってくれた編集長塩澤さんと石井さん。最後にメッセージを頂きました。

石井宏典

「編集作業は負担でしたが、それに勝るやりがいがありました。編集者として力不足だったとはいえ、皆様のご支援のおかげでなんとかこの仕事を全うでき、感謝しております。印象に残った仕事は、Vol.39・李明博前ソウル市長(当時)の講演を編集したことです。外部の方の講演を一面主要記事にするのは異例でしたが、その後はご存知の通り、結果的にいい仕事ができたと自負しています。今後は一読者としてマガジンを暖かく見守りたいと思います。どうもありがとうございました。」



塩澤涼子

「早いものでマガジン編集部員になってから2年が経ちました。ごく個人的な感想ですが、その中でもうれしかったことといえば、マガジンを配るときにはりつける名前を書いた付箋を全部とっておいてくれるひとがいたこと。感動しました。それにちゃんとファイリングしてとっておいてくれるひと、「お疲れ様」と声をかけてくれるひと、あるいは即座に真剣に目を通してくれるひと。記事も突然頼んだりして申し訳ないこともたくさんありましたが、皆様に支えられて今もなお、こうしてマガジンを継続できていることをうれしく思います。これからもずっと続いてほしいと思っています。」

そして4月からの編集長には舩灰谷愛が就任します!!
「ふつつかものですが、よろしく願います。みなさんに愛されるマガジンを目指してがんばります。」
塩澤さん、石井さん、お疲れ様でした。ありがとうございました!!

編集後記

text_hiraoka

大学生活4年間ってあっというまだったなあ。としみじみ思った卒業式。それからさらにあっというまに、一年がすぎました。今回のマガジンは一日早く、修了式にあわせた発行です。M2、そしてドクターの先輩方、本当におめでとうございます!!